



茨城県の経済情勢報告

令和4年11月1日
財務省関東財務局水戸財務事務所

本件に関するお問い合わせ先

水戸財務事務所財務課

電話 029-221-3180

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
総括判断	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	一部に供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している	➡

（注）4年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

一部に供給面での制約の影響がみられるものの、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動及び雇用情勢は持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年7月判断）	今回（4年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	➡
生産活動	一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している	一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している	➡
雇用情勢	持ち直している	持ち直している	➡
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	➡
企業収益	4年度は減益見込みとなっている	4年度は減益見込みとなっている	➡
企業の景況感	「下降」超幅が縮小している	「下降」超幅が拡大している	➡
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	↗
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

家電販売額、ホームセンター販売額は前年を下回っているものの、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額は前年を上回っている。また、乗用車の新車登録届出台数は、小型車が前年を下回っているものの、普通車及び軽乗用車が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。このほか、宿泊や飲食サービスなどは持ち直している。

このように個人消費は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 7-9 月期は感染拡大の影響を受けて 4-6 月期と比べると売上・客数が減少しているものの、行動制限が課されていない中で集客イベントの開催を行うことができたため、前年同期と比べると売上・客数が増加している。(百貨店・スーパー)
- 消費者の節約志向が浸透している一方で、行楽需要が回復してきたことで惣菜やホットスナックの売れ行きが良く、売上は前年を上回っている。(コンビニエンスストア)
- 9 月の新車販売台数は前年を上回ったものの、納期遅延の状況は解消に至っておらず、受注残が膨らんでいる状況。(自動車販売)
- 8 月は感染拡大の影響で消費者の動きが鈍かったこと、9 月はシルバーウィークが天候不順であったことにより、売上は前年を下回っている。(ホームセンター)
- イベントの縮小なども少なかったことや企業の出張需要が回復してきていることが要因となり、客室稼働率は改善してきている。また、7 月中旬～8 月の感染者数が増えた時期も稼働率が落ち込むことはなかった。(宿泊)
- 感染拡大の影響を受けて 7 月中旬頃から消費者が外食を控える動きがあったものの、8 月に感染者数がピークアウトして以降は再び売上が回復基調となっている。(飲食サービス)
- 小学校・中学校の遠足などの団体旅行が回復傾向にあり、10 月に入ってから大型バスによる来訪が増えている。これに伴って、県民割・全国旅行支援で付与される地域クーポンを利用して買い物をする客が増えている。(業界団体)

■ 生産活動 「一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している」

生産を業種別にみると、食料品などが減少しているが、化学などが増加しており、一部に供給面での制約がみられるものの、持ち直している。

- 定期修繕を行うために生産を停止していた期間がある 4-6 月期と比べると 7-9 月期の生産量は増加している。(化学)
- 情勢不安のあるロシアや機械の余剰感が続く中国を除いて世界的に生産機械の需要は旺盛であり、増産基調が続いている。(生産用機械)
- 上海ロックダウンが解除されたことなどから、部材不足が解消されたほか、4-6 月の生産減分の挽回生産を行っているため、7-9 月の生産量は前年同期及び前期と比べて増加している。(電気機械)
- エネルギー価格の高騰を受けて、輸送コストを削減するため、交通の便が良い都心近くに立地する工場の生産量を増やし、茨城県内の工場の生産量を減らしている。(食料品)
- 半導体不足の影響で自動車生産が減少していることで、自動車生産向けの製品の需要が減少していることから生産量を減らしている。(化学)

■ 雇用情勢 「持ち直している」

有効求人倍率が上昇しているほか、雇用保険受給者実人員は減少するなど、雇用情勢は、持ち直している。

- 需要が堅調である中、生産を増やしていることで人手不足感が続いていることから、随時人材募集を行っている。(製造業)
- 削減した人員を元に戻すべく募集をかけているものの、工場勤務などの他業種を希望する方が多いためか、人員補充が追い付いていない。(小売業)

■ 設備投資 「4 年度は増加見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4 年 7-9 月期

- 4 年度の設備投資計画は、製造業では前年比 15.6%の増加見込み、非製造業では同 14.4%の増加見込みとなっており、全産業では同 15.2%の増加見込みとなっている。

■ 企業収益 「4 年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」4 年 7-9 月期

- 4 年度の経常利益 (除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」) は、製造業では前年比 82.2%の減益見込み、非製造業では同 3.1%の減益見込みとなっており、全体では同 48.2%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が拡大している」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」4 年 7-9 月期

- 企業の景況判断 BSI は、前四半期 (4 年 4~6 月期) に比べ、「下降」超幅が拡大している。先行きについては、4 年 10~12 月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家が前年を下回っているものの、貸家及び分譲住宅が前年を上回っており、全体として前年を上回っている。

- 建築コストの上昇に伴って販売価格が上昇基調となっており、消費者マインドの冷え込みが生じる可能性が高まっているが、現時点において県南地域の戸建て分譲住宅の需要は堅調となっている。(住宅建設)

■ 公共事業 「前年を上回っている」

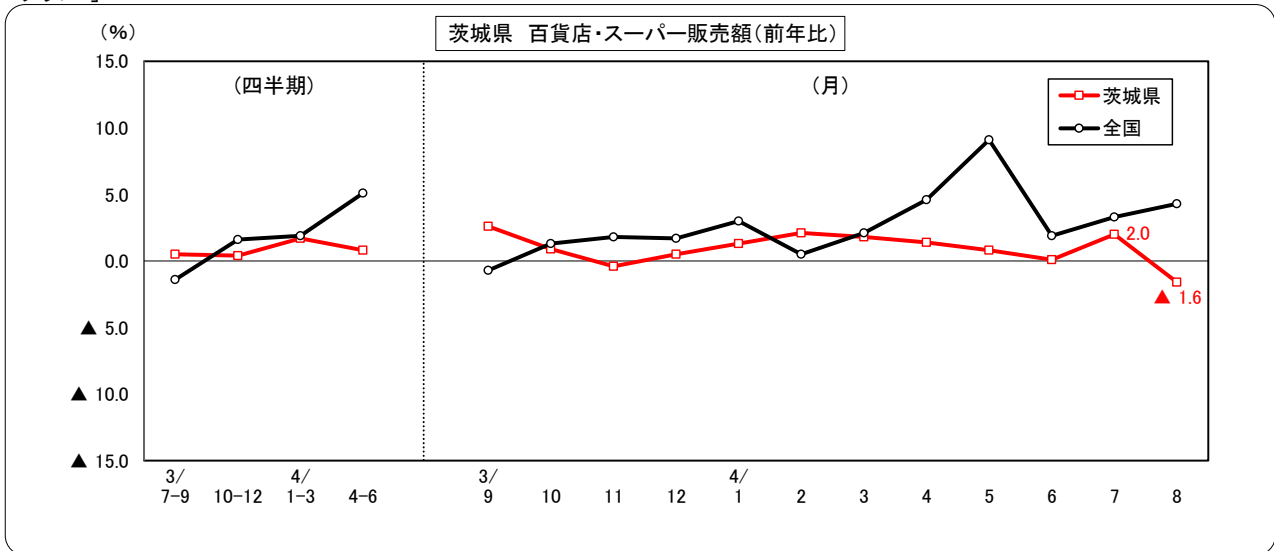
- 前払金保証請負金額をみると、前年を上回っている。

茨城県の経済情勢報告

資料編

1. 個人消費

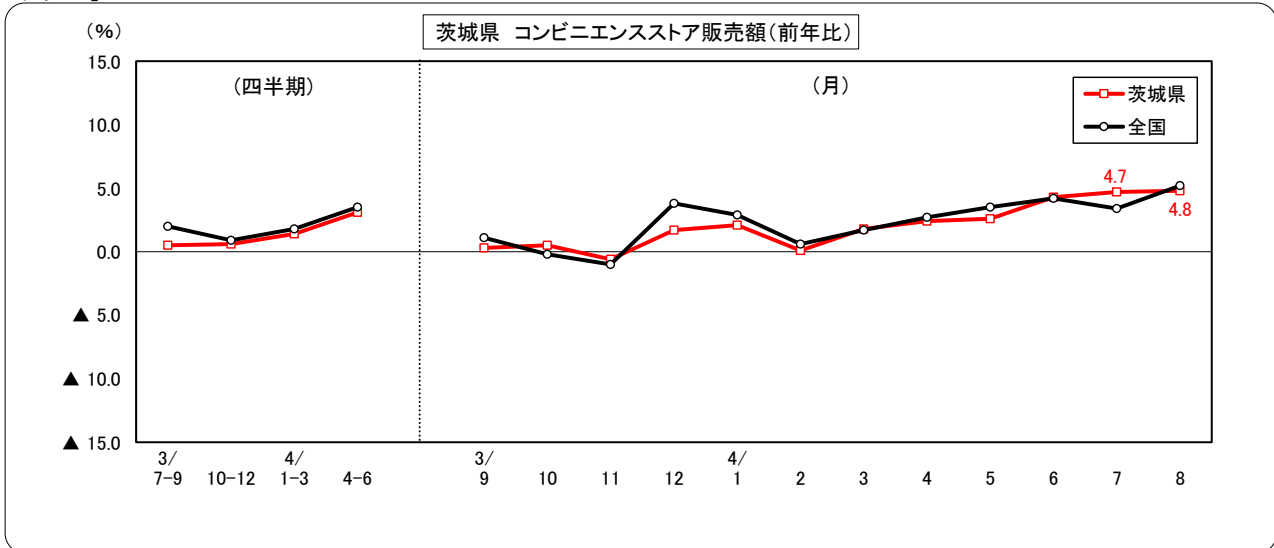
「グラフ1」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

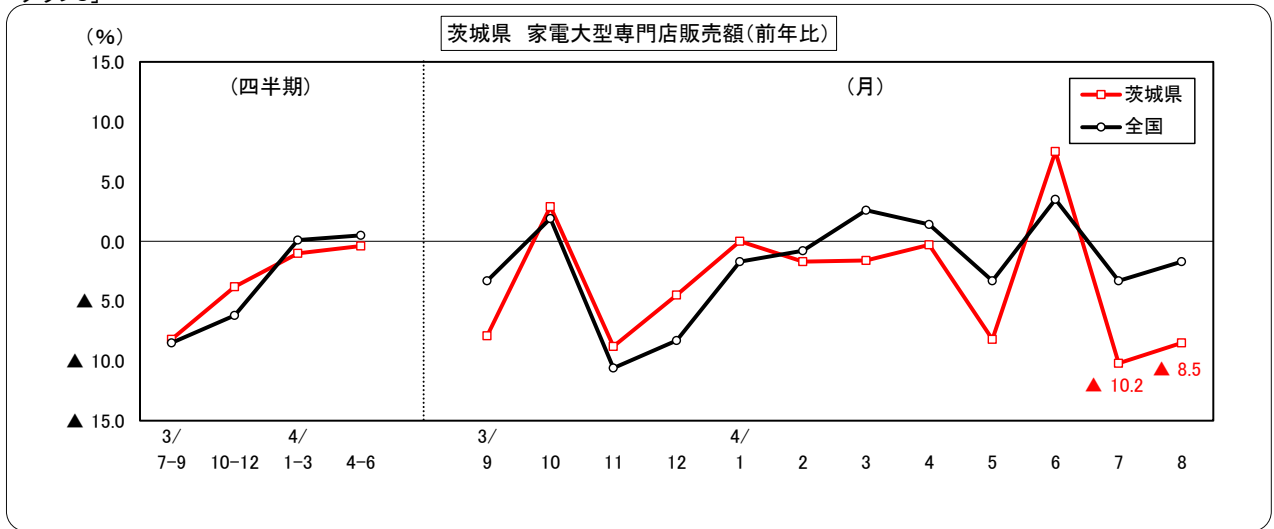
「グラフ2」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

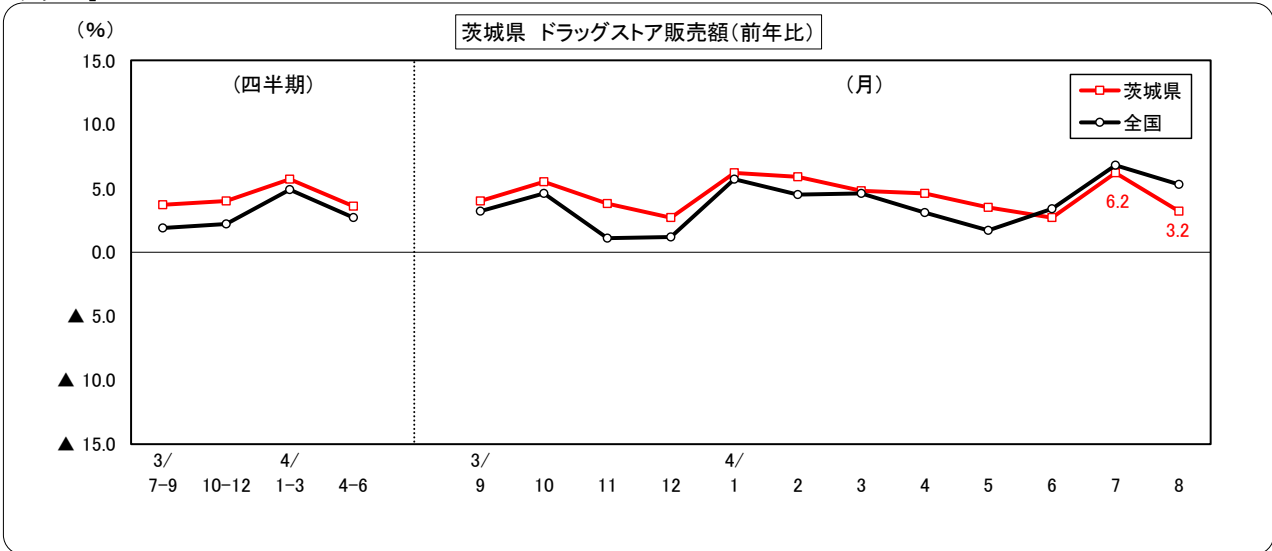
「グラフ3」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

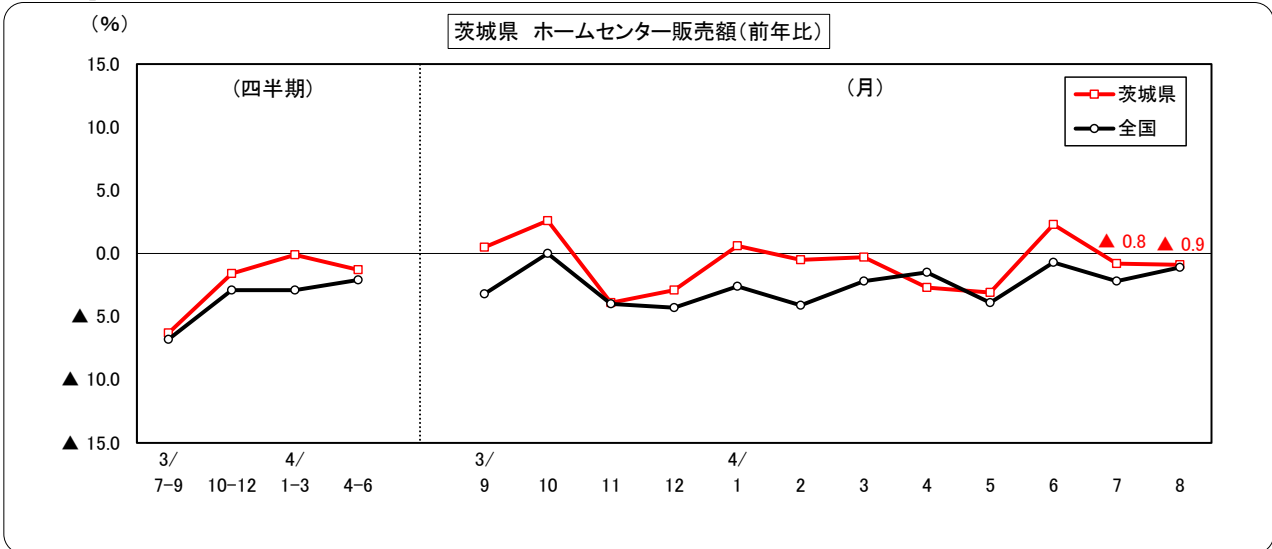
「グラフ4」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

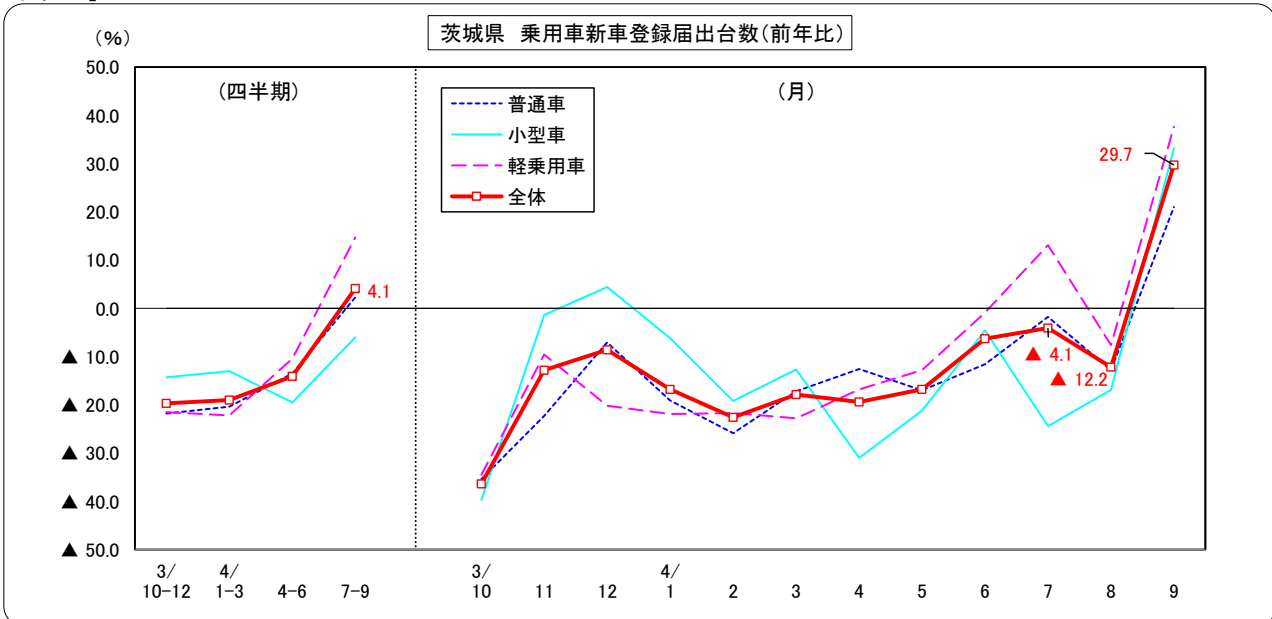
「グラフ5」



(注)全店ベースの数値。

(資料:経済産業省)

「グラフ6」

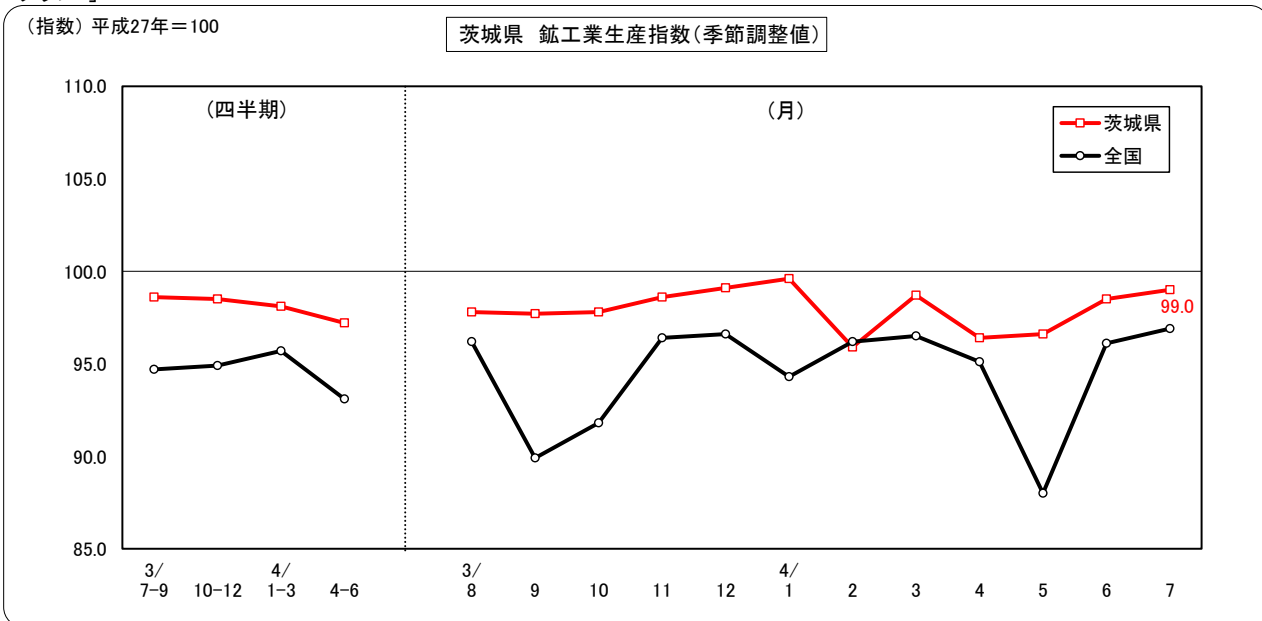


(注)乗用車新車登録届出台数は、ナンバーベースで普通車・小型車・軽乗用車の合計。

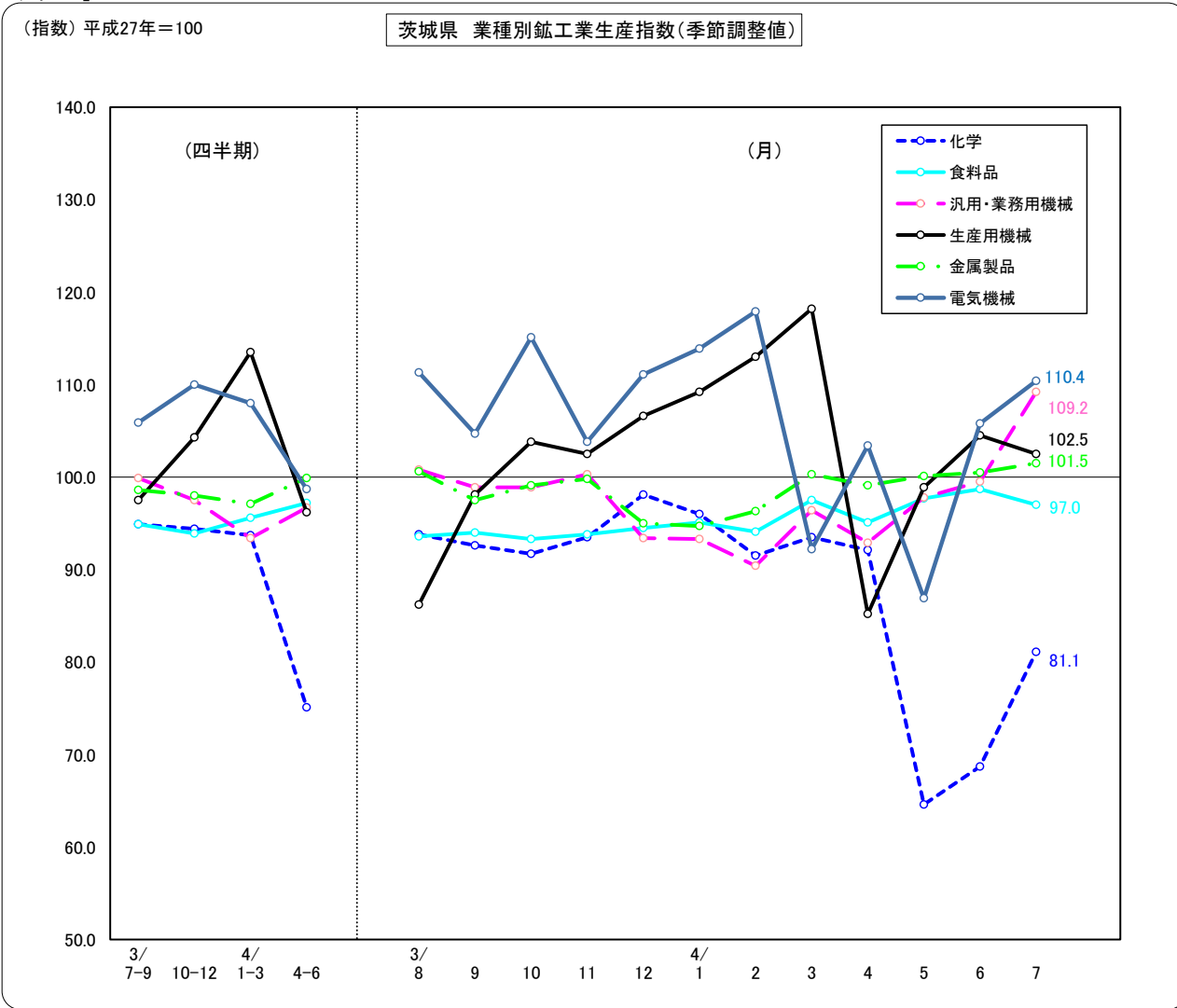
(資料:日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会)

2. 生産活動

「グラフ7」

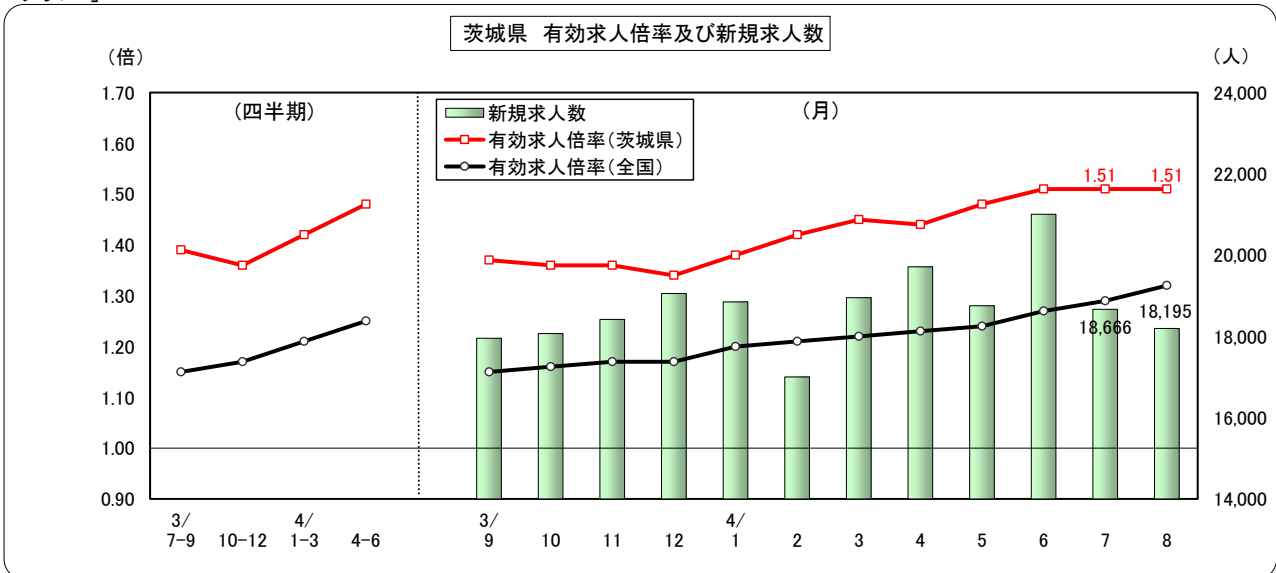


「グラフ8」

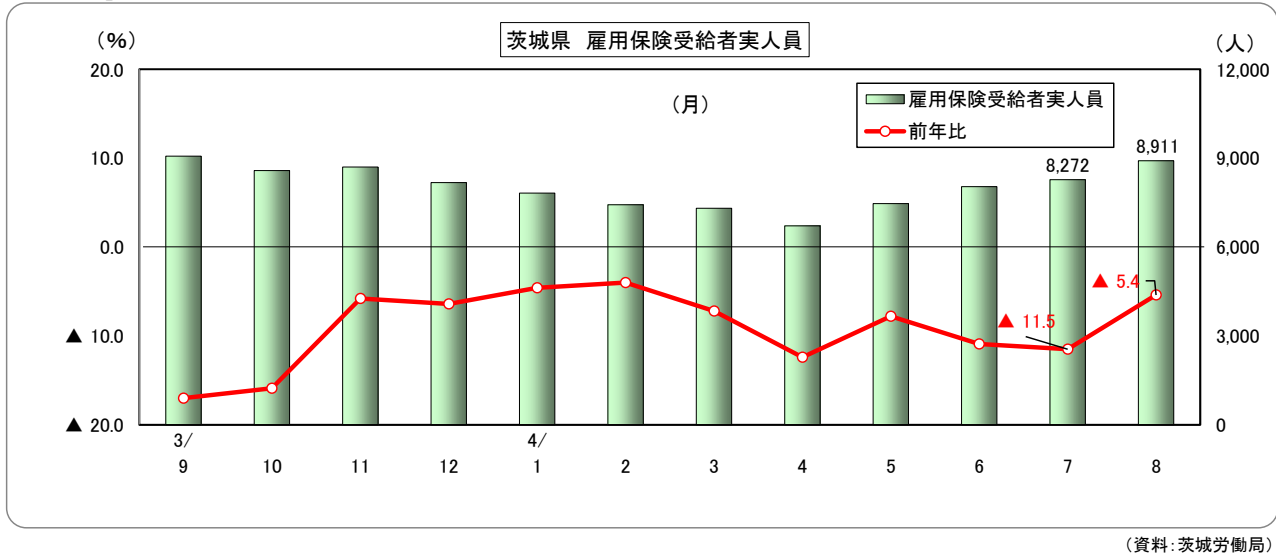


3. 雇用情勢

「グラフ9」

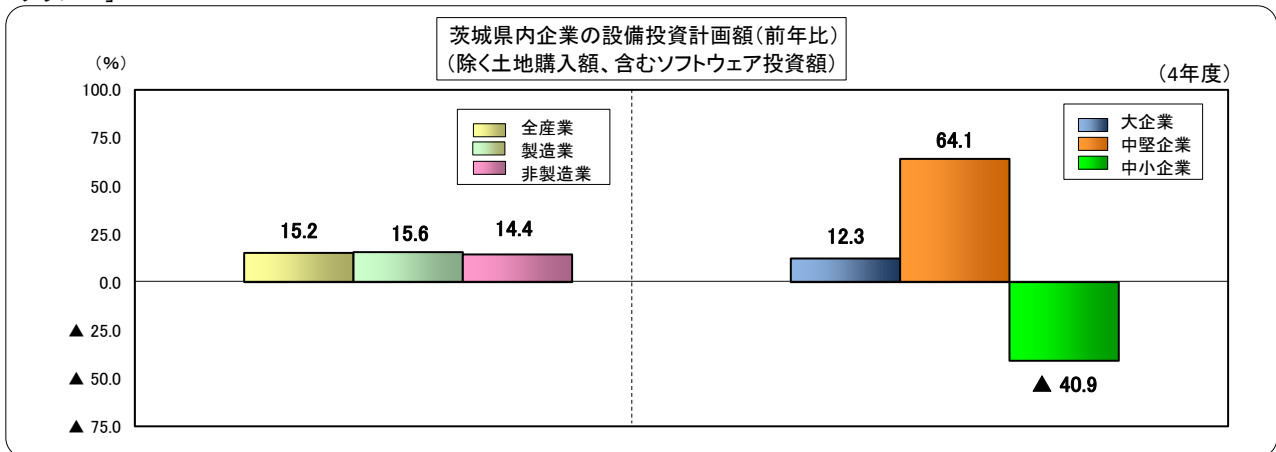


「グラフ10」



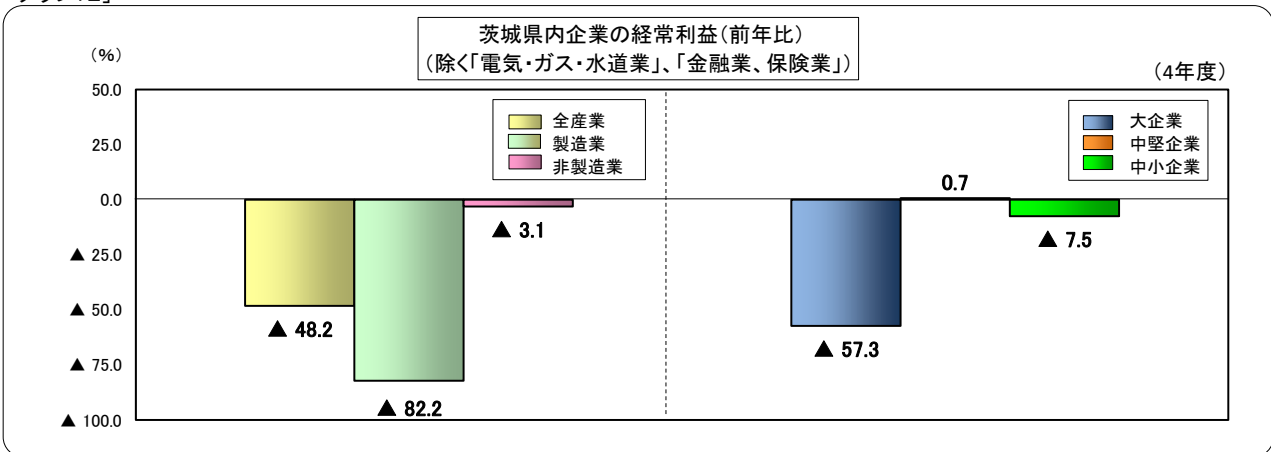
4. 設備投資

「グラフ11」



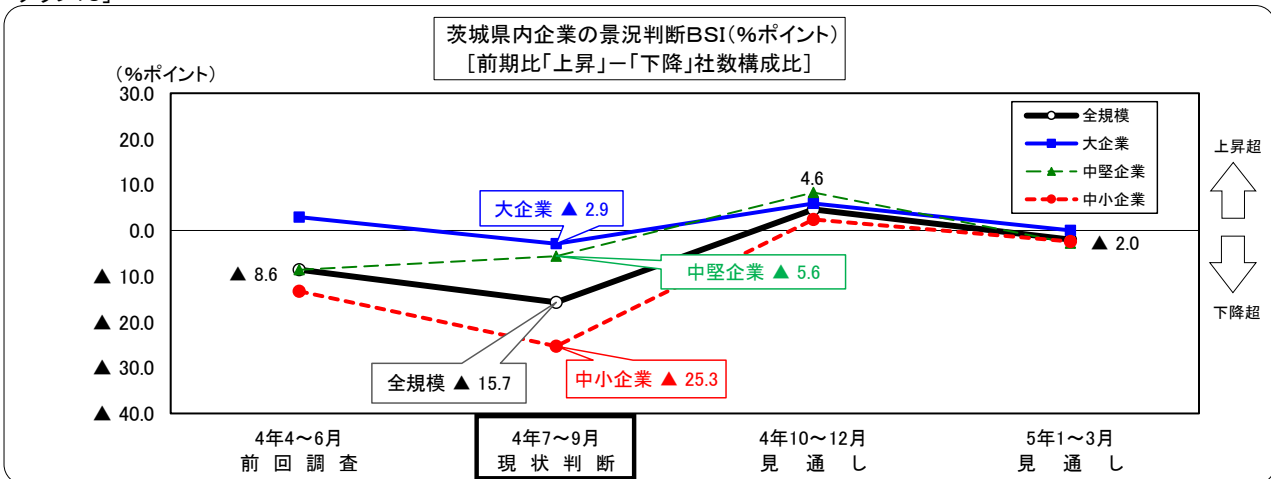
5. 企業収益

「グラフ12」



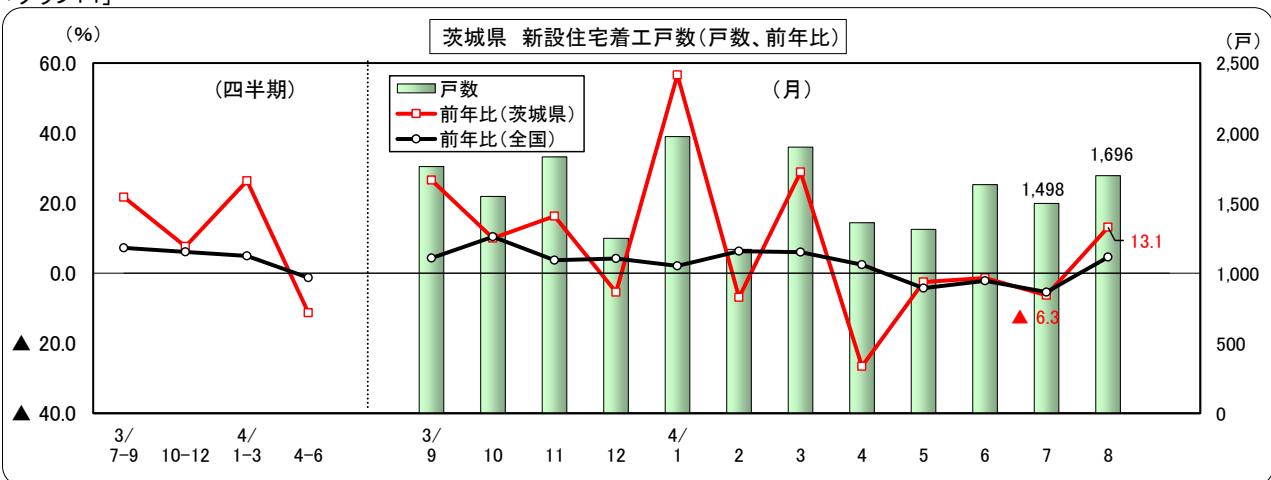
6. 景況感

「グラフ13」

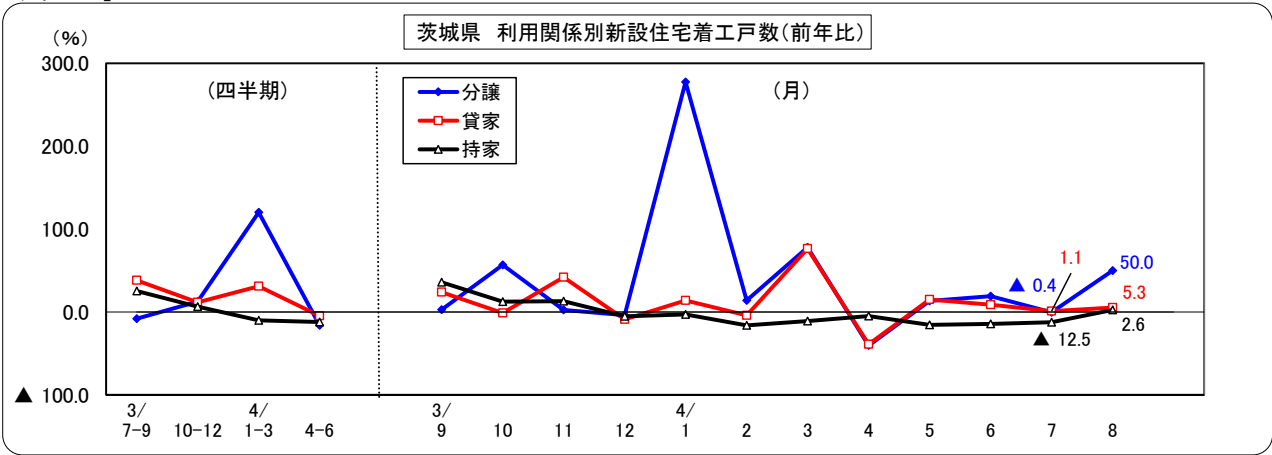


7. 住宅建設

「グラフ14」

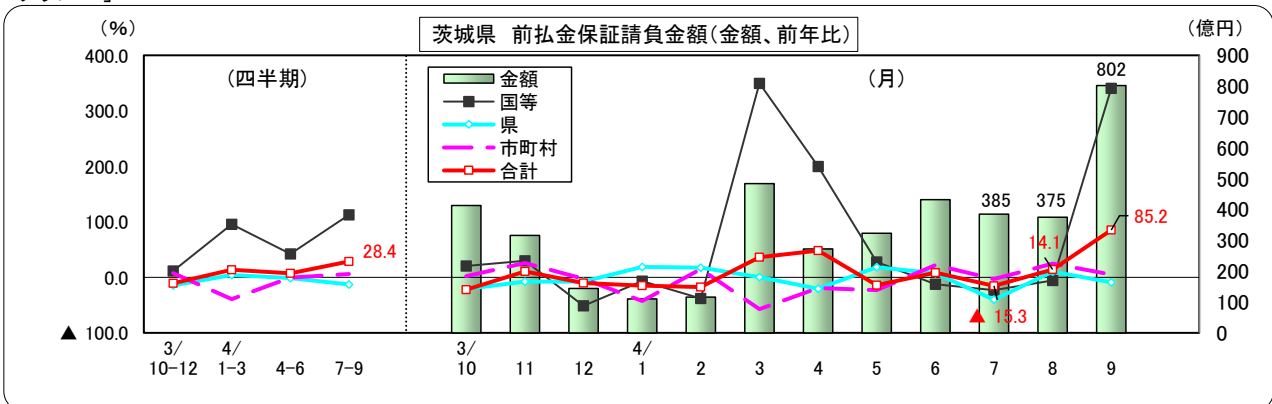


「グラフ15」



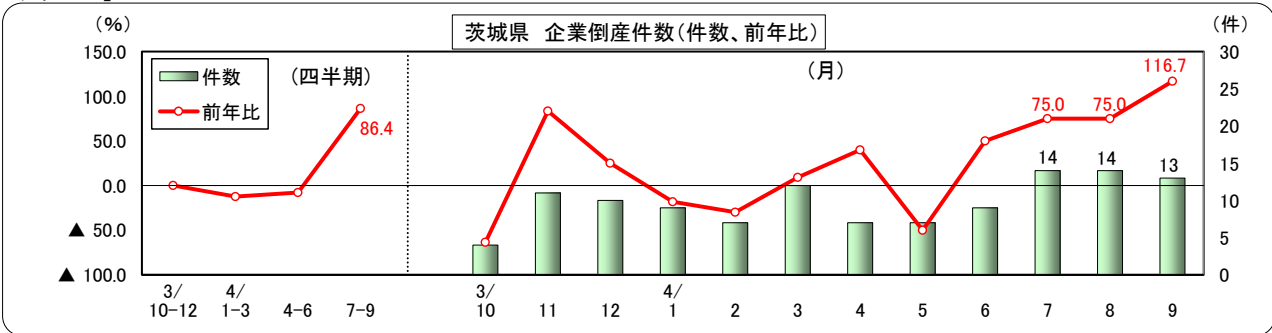
8. 公共事業

「グラフ16」



9. 企業倒産

「グラフ17」



「グラフ18」

